

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	シーサイドリビング沙美
日付	平成18年3月30日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	在宅介護経験11年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験5年、居宅支援事業所介護支援専門員経験5年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講師	全体を通して(特に良いと思われる点など) 2つのユニット共、男性の利用者が2人ずつ、男性の職員もいて、男女のバランスの良い雰囲気をつくっている。食事の準備にも、男性陣もよく参加して、口も出すけれど、手もしっかりと動かしている様子は、微笑ましい大家族である。1つのユニットは「餃子」、もう一方は「お好み焼き」が今日の昼食。細かくキャベツを切るのにも入れ替わり多くの人が参加して、餃子の包みは全員参加する。皆の待つテーブルで、餃子を焼く、お好み焼きを焼く。どのテーブルも賑やかな会話飛び交い、皆で食事を作っていた。 献立はユニット毎に作る。朝食も「ご飯」「お粥」「パン」とお好みで用意されている。利用者の好みを良く聞いているのだろう。食事には職員も一緒に食べ、よく会話しながら食事を楽しむ。最初は少ない目に盛り付け、あとで「御代わりどうですか」と利用者の希望を聞いていて補足している。よく御代わりする。「私の父は、食事の時、子供一人ひとりに今日あった事を聞いてね。そうかそうかと良く聞いてくれるからご飯を食べたんですよ。良いお父さんだった」と娘時代のことを話す。もう一人が「私のお父さんは、ご飯は黙って食え!」といつも言っていた。私たち子供はご飯を2階に持って行って食べていると、父親が来て、何でそこで食べるんだ。下で一緒に食べ!と言った。それぞれの昔の家庭、特に父親像の話に発展していき、それぞれの人が何回も何回も同じ事を繰り返して話してくれた。一つのきっかけで誘い水を注ぐと、昔の懐かしい話を楽しませてくれる。 皆で楽しみ、一人ひとりの心の中を語らえる雰囲気づくりに努めているグループホームの一端を見せてもらった。
特に改善の余地があると思われる点	次のような提案をした 家族や地域の皆さんに、グループホームでの認知症の人の生活ぶりを知ってもらい、協力してもらうために「たより」の発行をして、家族の関係先、地位の要所に配布するようにしてもらいたい。 記録の一つとして、利用者や気持ちや思い、情動の様子を具体的にノートに書いて、そのことについて全職員が自分の考えを書き添えていくような習慣をつくってもらいたい。職員個人個人がケアに関する諸問題や課題が共有でき、ケアの質の向上に役立つであろう。 自己評価を謙虚な気持ちで改善すべき点を指摘しているが、その中でこの外部評価も含めて早急にすべき事項を絞って、サービスの質の向上につなげていってほしい。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 一昨年の台風で、沙美海岸からの高潮と排水溢流で、この地域は床上浸水の被害に遭った。高齢化の進むこの地域の人が安心して暮らせるように役立てたいと、このグループホームを昨年春開設した。 地域とのつながりを大切に、ここに住む人が生き甲斐を感じて、日常生活に充実感を味わってもらいたいという願いが、このグループホームの大きな目的である。この思いを実現する為、代表や事務長で色々試行錯誤を続けながら、志のある施設長や職員を求めて、ようやく昨年末に体制作りが出来た。 このグループホームが、地域に基盤をつくり、利用者が日々ここでゆったりと残された人生を過ごせるよう職員も頑張っている。今後に期待したい。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 代表は、自分が住んで良い家を考えて造ったというだけあって、木材をふんだんに使い、リビングルームも廊下も居室にも無垢の木肌が暖かさを感じさせてくれる。広幅の廊下は、一直線でゆとりがある。利用者は、ここで運動も出来そうだが、水害の災害時には地域の避難場所として活用するそうだ。地域の人も喜ぶだろう。各居室の入口には輪切りの木片に、優雅な墨絵と書が描かれた看板があり、自分の部屋の印象をしっかりと憶えている。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 利用者の持っている能力や趣味を生かして生活する事に力を入れている。年齢も70歳代から90歳代の幅があり、経験も色々な職場で働いたり、家庭で農業をしったりしてきた人等多才である。毛筆の達人、フラワーアレンジメントをする人、カラオケが好きな人、畑で作物作りをする人、そして料理や家事をする人等それぞれの能力を生かして生活している。 沙美海岸が近いので、利用者が揃って散歩に行く。「私のような元気に歩ける人は、車椅子の人を押していけます。力がいるよ。海岸に行ったら、砂で車椅子が動かんのよ」と教えてくれた。眼に浮かぶよう。利用者同士でも協力し、助け合いながら、ここでの生活を楽しくしている様子を見て嬉しくなった。 日々の利用者の生活ぶりや心身の能力も簡潔な記録で分かりやすくまとめられている。まだ工夫の余地はあるが、利用者のケアのPDCAのつながりをうまくまとめるフォーマットを研究して欲しい。		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 沙美地域には、高齢者のケアをする施設が余りないので、このグループホームが地域密着型のケアの拠点となるようリーダーシップをとって発展して欲しい。 認知症ケアも利用者の一つ一つの行動や感情の状況を自らの教材として、職員同士がその問題点を共有し、どのようにケアすれば良いのか、職員同士でよく話し合いながら、利用者や家族へのサービスの質の向上に努力していただきたい。家族もその中の協力者として、家族のできる場に登場してもらえることも大切だと思う。 利用者一家族一職員が三位一体となって、地域にも貢献される日が将来訪れることを期待している。		